

ペットボトルも リユースできる！

水でもお茶でも、私たちの身の回りの飲み物は、いつのまにか、ペットボトルが当たり前になってしまいました。年間で一人あたり165本も使っているといわれています。これではリサイクルが進んでも、環境負荷は減りません。ドイツや北欧のように、リユースできるペットボトルは日本にも導入されるのでしょうか。

■ 環境省が導入を検討、実証実験中

今年8月、環境省は、ペットボトルリユースの実証実験を開始しました。8月末からの1度目の実施期間には、専用の1.5リットルペットボトル入りミネラルウォーターを商品価格130円に10円または20円のデポジットを上乗せした金額で販売しました。飲み終わったボトルは、店内に設置した回収機やレジで回収し、返却するとデポジットが返金されるシステムです。近く予定されている2度目の実施期間には、1度目の実施期間中に返却されたボトルにふたたび中身を入れて販売します。

環境省は、3Rの中でもリサイクルよりリデュース、リユースを推進していくために、これまでリユースがほとんど行われていなかったペットボトルに焦点をあて、今年3月に研究会を設置、ペットボトル等のリユースやデポジットの導入について検討を始めました。

この実証実験では、リユースのペットボトルが消費者に受け入れられるか、採算の合う回収は可能か、また小売店の意識はどうかといったことを確認するとともに、汚損ボトルの除去や、コスト・環境負荷等について検証を行い、リユースの実施やデポジットの導入について議論を進める予定です。



店頭では、リユースが環境にやさしく、デポジットが返金されることをPR

■ 店頭での反応

今回の実証実験に参加しているのは、京急百貨店、イトーヨーカドー（ともに神奈川県横浜市）、アプリスケイホク（千葉県柏市）の3店舗と、宅配事業のパルシステム千葉（柏センター）です。これまでも環境への取組みをしてきたことや、自治体からの後押しもあり、参加することになったそうです。

京急百貨店の担当者は、「販売開始時にリユースの仕組みについて色々質問してから買われた方も多く、お客様の関心は高かった」と話しました。店舗側の負担については、「回収は機械で行うので特に負担はない」とのことで、店舗に十分なスペースのあるスーパーでは、導入も困難ではなさそうです。鍵となる一つは、これから結果の出る容器の回収率です。宅配システムや、大学などのある程度限定された空間、地元密着型の店舗などであれば、高い回収率も期待でき、リユースペット導入の実現に一步近づくことができるでしょう。



店頭に設置されたスウェーデン製のリユースペットボトル回収機

■ 本格導入に向けて

日本でのリユースペットボトル実現に向け2005年から検討を開始し、2006年から調査や実験に取り組んでいるパルシステムの小沢一郎さんは、「しくみさえ整えば、将来的には全ペットボトルのうち10%程度をリユースにすることも不可能ではないだろう」と語ります。「ただ、ヨーロッパのような硬い法律は日本では難しいので、既に普及しているポイント制なども考慮した、日本に合ったしくみが必要。」

実証実験の結果が来春に出たら、今度は事業者・行政に市民団体も関わりながら、具体的なしくみづくりを検討していく段階です。2012年の改正容器包装リサイクル法の見直し時に、ペットボトルも含めて「リユース促進」の枠組みがつくられるよう、全国で動きを作っていく必要があります。FoE Japanは、ペットボトルのリユースが日本でも実現することを期待し、実験の結果と今後の動きに注目していきます。

■ 東京が油田に？！ ～えどがわ油田開発プロジェクト

最近、燃料価格の高騰が企業の経営や私たちの生活に影響を与え続けています。石油はあと40年ほどで枯渇すると言われていすし、その使用は地球温暖化を進めてしまいます。でも、石油に代わる新しいエネルギーって何？

東京・江戸川区に、区内で「油田開発」をしようという、ユニークなプロジェクトがあります。といっても、石油を掘るわけではありません。みなさんの台所や、飲食店の厨房などで使われた使用済みの食用油を回収して、B D F (Bio Diesel Fuel・バイオディーゼル燃料)をつくらう、というこの取り組みです。そのまま流せば水質汚染になり、固めたり紙に吸わせて捨てればごみになる食用油の「脱・使い捨て」とも言えます。

このプロジェクトは、江戸川区内の事業所や公共施設、家庭から回収した廃食油を精製し、区内で利用できるサイクル・システムを作るべく、2006年12月に立ち上がりしました。区内で活動する環境NPO、B D Fの精製を行う会社が参加しています。原料となる使用済みの食用油は、区内の飲食店や食料品店から引き取るほか、区内のイベントなどで市民からも集め、それを精製設備でB D Fにします。1日1回、6～7時間の稼働で200

リットルの廃食油を燃料に精製することができそうです。これを、区内の運送会社や区役所のトラック、公園での遊覧車の燃料として使っているのです。「将来的には小中学校の給



イベントなどで廃食油を集めます

食調理で出る廃食油で区役所のディーゼル車が走るようになる」とプロジェクトに参加する環境NPO「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」の山崎さんは語ります。

都市は「鉱山」であるだけでなく「油田」でもあると気づかせてくれるこのプロジェクト。B D Fを使ってくれる会社も、募集しているそうです。詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

* えどがわ油田開発プロジェクト

<http://www.edogawa-yuden.com/>



News Flash

■ 「点検！改正容リ法」 容器包装の3Rを進める全国ネットワーク 設立5周年シンポジウム開催

家庭ごみの容積比で60%以上を占める「容器包装」の3Rを進めるために、全国でごみ減量に取り組む214団体と個人が結成したネットワーク。その前身「容リ法の改正を求める全国ネットワーク」が2003年に活動を開始してから、今年で5周年を迎えました。この区切りにまだまだ不十分な「改正容器包装リサイクル法」の施行状況を点検し、課題を確認、今後の方向性を共有するシンポジウムが開かれました。

分科会「がんばれリユース！」で、FoE Japanも「地域自主協定によるファストフード・コーヒーショップチェーンのリユース推進」の事例を発表しました。改正容器包装リサイクル法には、残念ながらCO2を削減する「リユース」は盛り込まれていません。しかし、各地で「自主的な取り組み」が頑張っています。

リユースびんのジュースを大学で販売する千葉大学、リユースペットボトル実現に向けて検討を重ねているパルシステム、リターナブルびんポータルサイトを準備しているガラスびんリサイクル促進協議会などからの報告、リユースびん普及アイデアコンテストの発表に続き、議論が行われました。今後、脱・使い捨てNEWSでもお伝えしていきたい元気な取り組みがいっぱいでした。

* 容器包装の3Rを進める全国ネットワーク

<http://www.citizens-i.org/gomi0/>

全国各地を旅するエコな奴

一生瓶

「くり返し使うびん応援コンテスト」入賞作品より
他にもユニークな作品が集まりました。

<http://www.binnet.org/contest/>

From FoE Japan

■ 「脱・使い捨てNEWS」メールマガジンにご登録ください！

このニュースは、紙の使用量削減のため、基本的にPDFファイルをウェブ上にアップし、メールマガジンで発行をお知らせしています。

登録はこちらから

<http://www.foejapan.org/lifestyle/gomi/NEWS/index.html>

このニュースをより多くの方に購読いただくため、メルマガ、メーリングリスト等でご紹介いただけましたら幸いです。

■ インターン・ボランティア募集

脱・使い捨て社会プロジェクトをお手伝いいただけるインターン・ボランティアの方を募集しています。

【業務内容】

国内外の脱・使い捨ての取り組みに関する調査・研究、および付随する業務

【勤務条件】

曜日、時間帯はご相談に応じます。定期的に来ていただけるインターンの方には、交通費を支給します。

詳細は下記までお問い合わせください。

発行 国際環境NGO FoE Japan www.foejapan.org
脱・使い捨て社会プロジェクト

tsukaisutezero@foejapan.org
〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F